みんな宝　　2026 年 10 月 18 日

マタイによる福音書　5:13-16

10 月も後半の歩みとなって参りました。この地上に教会を誕生させた神が、今日もなお、私たちをこうして週毎に呼び集め、そして、再びこの世へと遣わしてくださいます。そして、教会において、またそれぞれの生活の場において、私たちがあと何年、何十年、この世に存在するかは分かりませんが、何年であろうと神の御業のために用いられること、つまり神の働き人として用いられるということの幸いを確認したいと思います。

イエス様による宣言

「あなたがたは地の塩である」、「あなたがたは世の光である」とは、教会に集っている方は馴染み深い御言葉だと思います。ここで注目したいのは、「塩・光になった方がいいですよ」というお勧めとか、「塩・光になりなさい」という命令の御言葉でもなく、「塩である」「光である」というイエス様の宣言です。この箇所は、5 章 3 節以下、イエス様が山の上で神の教えが語られた「心の貧しい人々は幸いである」から始まる「幸いの教え」＝「山上の説教」の八つの幸いの続きとして語られたものです。その対象は大勢の群衆です。彼らはこの世の権力者や信仰熱心な人々ではなく、むしろ貧しい人、罪人、弱さを抱えた人等、社会から差別され、疎外されていたような人々でした。そのような人々に向かって、イエス様御自身の権威をもって「あなたがたは「地の塩である・世の光である」と宣言されたのです。

ここには大切な二つの意味が含まれていえると思います。一つ目は、「地の塩」「世の光」は、人間側の努力によって獲得したものではなく、純粋に恵みとして神から「与えられたもの」だということです。二つ目は、この世に存在している私たちは決して無意味なものではなく、神は目的をもって「地の塩」「世の光」として、この地上に置かれているということです。私たち人間を用いて神の働きを為す為に与えられたものといって良いと思います。

変化をもたらす脇役

その目的とは何でしょう。塩を加えるならば味が変わります。しかし、その形は溶けてなくなりますが、他のものの味を引き出す役割があります。また防腐と清めの役割もありますが、あくまでもどちらも脇役といえます。光は相手を照らすために輝きます。その光は私たちから出たものではなく、イエス様の光です。私たちの内にイエス・キリストが生きておられるその光です。塩であり、光であるということは、このように他者を生かす存在で、変化をもたらすのであります。

立派なクリスチャンになって、地の塩、世の光になるのではなく、既に地の塩、世の光として存在している私たちなのです。ですから、塩味を失うな、明かりを隠すなと聖書は語っています。あなた方の存在がこの社会に必要なのだ、ということです。私たちの存在は小さいながらも、それは他者の良さを引き出し、この世に大きな喜びと幸せを与える存在としてなのです。自分たちの働きが、小さく、無力にも感じる時もあるかもしれませんが、そこには必ず大きな意味を持つことを心に留めておきたいものです。

教会についていえば、仲は良いけれど信仰の味がしない交わり、イエス・キリストを証しすることも、神を指し示すこともなく、この世の集まりと変わらなくなってしまった教会は、教会として神の目

的を果たすことはできません。教会には教会にしかできないこと、信仰者には信仰者にしかできないことがあるのです。その味を失ったら、塩はもはや塩としては使えません。

「世の光である」という言葉についても言えます。「山の上にある町は、隠れることができない。また、ともし火をともして升の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである」。信仰者として生きるということは、もはや隠れることができなくなるというのです。「あの人はクリスチャン」とみられます。そのような人々にイエス様は積極的に「あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである」と言われるのです。

「光を輝かせる」という「光」は、私たち自身から出たものではなく、私たちの内にあるイエス・キリストの光です。そのイエス様の光で他者を照らすことができるのです。重要なのは私たちの「立派な行い」そのものではなく、その背後にある信仰生活です。本当に神と共に生きているか。御言葉に聴き、祈りをささげ、神との生きた交わり中に生きているかということで、信仰のことを指しています。

立派な行いというのも、天の父から来ているもの、すなわち信仰から生じた実りのことです。そうでないと、「あなたがたの天の父をあがめるようになる」ということは起こらないのです。失敗ばかりしている者であってもよいのです。私たちに力があるかないかの問題ではなく、「塩」や「光」を失わなければ、良いのです。出来が悪くても失敗するような私たちでも、「塩」と「光」さえあればいいのです。そんな私たちは、神にとってみんな宝なのです。私たちは祝祷を受けてここから世に遣わされます。既に宣言してくださっているように、私たちは「塩」であり「光」として、この世に変化をもたらす神の働き人と信じてここから歩み出しましょう。